

平成29年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立九段生涯学習館	所在地	千代田区九段南1-5-10
-----	--------------	-----	---------------

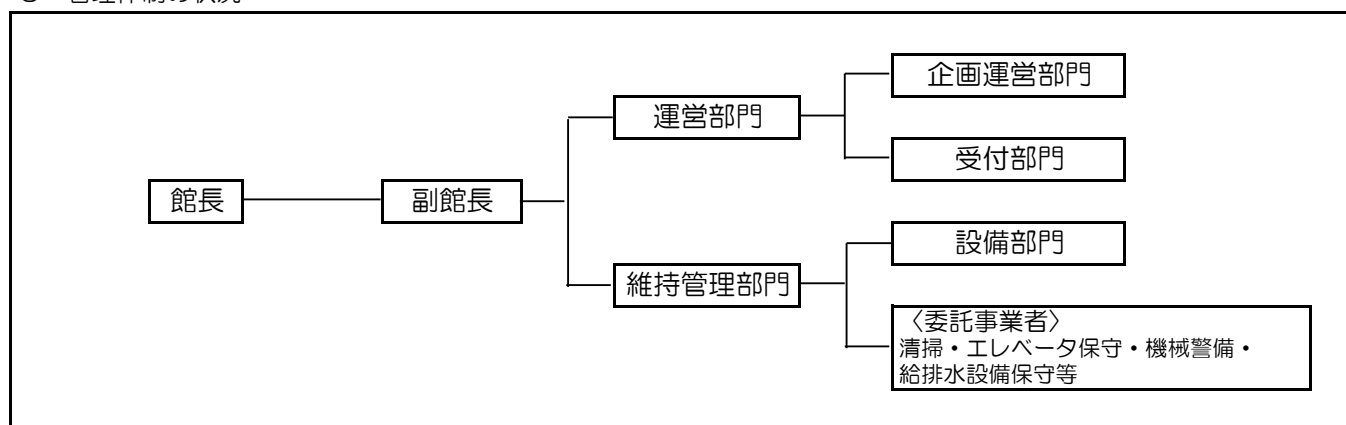
1 指定管理者の概要

名称	ミズノグループ		
代表団体	美津濃株式会社	代表者	代表取締役 水野 明人
所在地	大阪市中央区北浜4丁目1番23号		
構成団体1	株式会社小学館集英社プロダクション	代表者	代表取締役社長 都築 伸一郎
所在地	千代田区神田神保町2丁目30番地		
構成団体2	大星ビル管理株式会社	代表者	代表取締役社長 寺島 剛紀
所在地	文京区小石川4丁目22番2号		
指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日	報告期間	平成29年4月1日～平成30年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	区民（区に住み、働き、学ぶ全ての人々をいう。以下同じ。）の生涯学習の振興を図ることを目的とし、生涯学習活動を実践できる場の提供、及び支援に関する事業を行う。
管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生涯学習館の施設の利用承認に関すること。 (2) 生涯学習関係団体の育成及び連携に関すること。 (3) 生涯学習の指導及び助言に関すること。 (4) 生涯学習活動の普及及び推進に関すること。 (5) 施設の保守及び維持管理に関すること。 (6) その他館の事業及び管理運営に関し必要な業務。

3 管理体制の状況



4 事業実績等

ア 施設利用

年度	総数	区民一般団体利用件数	事業利用件数
29	9,037	8,596	441
28	8,759	8,269	490
27	8,875	8,391	484

イ 主催事業

区民自主企画運営講座（8講座）、生涯学習教養講座（4講座）、人材バンク活用講座（7講座）、講師派遣（50団体）、児童生徒余暇事業（3講座）、家庭教育学級（9講座）、子ども自然教室、九段LLカフェ講座（4講座）、九段オープンラーニング、異世代交流事業（2講座）、生涯学習ガイドブック（2,000部）、講座講習会バウチャー制度（410件）

ウ 施設等の維持管理業務

・建物、設備保守管理 ・施設清掃業務（害虫駆除含む） ・警備業務

5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料収入	88,413,172円	人件費	51,087,187円
施設利用料金収入	9,388,000円	維持管理費	10,808,640円
個別指定事業収入	3,196,700円	事業運営費	39,787,949円
独自事業収入	507,970円		
その他収入	215,210円		
合計（①）	101,721,052円	合計（②）	101,683,776円
収支差額（①－②）	37,276円		

6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
<p>施設利用件数は、年度末に1ヶ月間の内装工事実施により利用出来ない期間が生じたが、高い水準となった。この要因は、コンパクトな部屋の利用が高かったことにある。これに対し、大型の部屋のうち、レクリエーションホールを除いた他の部屋の利用実績は過去2年の比較で若干下回った。今後、実績分析するとともに利用者の希求を正確に捉え、適切なサービス提供に努めていく。</p> <p>事業運営については、事業それぞれの目的に沿って遂行し、概ね定員以上の参加申込み数を達成できた。特に千代田区の地域性にスポットを当てた講座（生涯学習教養講座：「インド大使館で学ぼう」、九段LLカフェ：「神田祭で女神輿を担ごう」等）が参加者に好評で、運営協力の地域団体等との関係の構築に進展するなど、実りある事業展開となった。「区内生涯学習交流事業」と「異世代交流事業」においては、異なる「年代」や「集まり」を繋げるために、共通して興味を持てるテーマの講座実施（「梅のひみつ」）と、サークル自己紹介動画の撮影会等を実施し、交流の場を創出することが出来た。</p> <p>今後は、当施設の命題である「生涯学習の振興」を推進するにあたり「交流」の必要性について認識を一層深めるとともに、区民の学びの場づくりの更なる活性化・拡充を図っていく。</p>	<p>収支に関して、指定管理料は今期もバウチャー制度の利用者増加に伴い、追加精算が発生した。</p> <p>施設利用料金収入については、利用件数が昨年度対比103%と増加し、これに伴い利用料金収入も101%となり、予算を上回った。一般利用団体の増加や、ここ数年のレクリエーションホール改修（照明・音響など）に伴い利用者の利便性が向上したこと等によって利用件数が伸びたことが理由である。個別事業収入においても、生涯学習教養講座の観劇プログラムや、材料費が伴う区民自主企画運営講座のプログラム等において多くの参加があった為、予算を上回る結果となった。</p> <p>支出に関して、累計は収入同様にバウチャー制度の追加精算もあり、予算を上回る形になった。光熱水費は昨年に引き続き電気使用料を削減（対昨年比1%削減、¥70,093）した。これは空調機の消し忘れ等こまめなチェックや、利用者への案内が浸透してきた結果だと考えている。役員費は事業の広報活動で印刷に係る経費が多く発生した。個別指定事業についてはHPのスマートフォン対応の改修等で予算を上回ったが、利用者の利便性の向上に繋がったと判断している。</p> <p>次年度も予算を有効に活用して、施設貸出サービスや講座内容・製作物等を充実させ、引き続き利用者満足度の向上に努めていく。</p>

7 区としての評価・今後の方向性

<p>29年度</p>	<p>毎年実施している利用者アンケートにおいて、職員への満足度の項目では昨年度に比較すると若干劣るものの、7割半ばが10段階評価で8以上の評価をつけていることから、利用者から高い評価を得ていることがわかる。これは単に親切で丁寧だけでなく、積極的かつ確かなサポートにもよるものである。昨年からの施設利用における課題であるコンパクトな部屋の利用率向上については、SNSによる情報発信に加えて、スタッフのコミュニケーションによる情報発信も大きく寄与したと考えられる。生涯学習施設として人が集う場所だからこそ、引き続き利用者とのコミュニケーションも大切にしながらの事業運営に期待したい。</p> <p>施設の老朽化により突発的かつ緊急性のある修繕が生じる可能性がある一方、利用者のニーズに基づき、備品整備や修繕など環境を整える必要も生じている。今ある資源を最大限活用しつつ、重要度や必要性に応じて積極的に利便向上に取り組み、よりよいサービスを提供してもらいたい。</p>
-------------	---